

The Women's Studies Association of Japan

学会ニュース 日本女性学会
第44号 1990年11月

発行 日本女性学会
事務局 東京都文京区弥生2-4-16
学会事務センター気付
TEL 03-817-5801

大会へのご案内

1990年度後半の大会を、下記の通り、国立婦人教育会館で開催します。お忙しい時期とは思いますが、泊り込みで、率直な意見交換を行ない、研究と交流を深めたいと思います。

プログラム

○12月15日(土)

13:00 受付開始

13:30~17:00

・シンポジウム

“女性への暴力—その構造を問う”

・パネリスト:

円 より子 「家庭内暴力」

江原由美子 「セクシュアル・ハラスメント」

内藤 和美 「子供への虐待」

・モデレーター: 船橋 邦子

・討論司会 : 小松満貴子

17:00~20:00 食事・休憩

20:00~22:00 ミーティング—全員集合

22:00~ フリータイム

(ビデオ、作品等持込歓迎)

○12月16日(日)

9:00~11:30

溝口 明代 「水子信仰と男性の思想」

阿部 秀子 「言語と女性—社会言語学の立場から」

漆田 和代 「‘婦人’‘女性’‘女’—女の呼称考」

西山千恵子 「雑誌メディアにおける性—東京都の性の商品化に関する研究から」

桑原 糸子 「古典政治学確立期の女性観とその現代への影響—プラトンとアリストテレスとの最善の国制における女性の政治的地位と男女の本性」

(分科会部屋割は前日発表させていただきます。)

11:30~13:00 食事・休憩

13:00~15:00 ワークショップ:

フェミニズムとリーダーシップ

15:00~16:00 幹事会

◎ 出欠ハガキは12月3日必着でお出し下さい。

シンポジウム:

女性への暴力——その構造を問う

買春、強姦、近親姦、セクシュアル・ハラスメント、ポルノ、夫による妻への暴力、焼かれる花嫁、国家による人口政策、割礼、子どもへの(性的)虐待、美容整形、いずれも他者(社会=権力)によるからだへの侵害という意味で暴力である。

その現象形態は国家・文化・社会的慣習により違いがみられるが、いずれも地球全体を支配する男性社会の権力の濫用の結果である。それは男性社会、女と男の不均衡な力関係の下で権力をもつ男性が権力をもたない女性(子ども)の行動を抵抗を排してでも規制する、原初的、原始的力であり、男性社会の孕む構造的暴力である。

本シンポジウムは、セクシュアル・ハラスメント、児童への虐待、夫による妻への暴力(強姦も含む)をとり上げて、日本の現実に照応しつつ、女性への暴力の構造を分析する礎石にしたい。報告は豊富な事例に基づくものであり、女性学にとって未開の分野の今後の理論構築のための布石となるよう討論を深めていきたい。

(文責 船橋邦子)

○コーディネーター及び問題提起者 船橋邦子

○報告者

円より子(現代家族問題研究所での事例による夫の妻への暴力の実態報告と分析)

江原由美子(セクシュアル・ハラスメントに関する共同研究によるアンケート調査の分析報告)

内藤和美(小児科病院での児童虐待に関する多くの症例の分析に基づき、暴力の構造を問う)

ワークショップ:

フェミニズムとリーダーシップ

フェミニストがグループやネットワークをつくる時、リーダーシップをめぐる「思い込み」のくいちがいとまどうことが少なくない。リーダーシップをあえて拒否しようとする思い、明確なリーダーシップを望む思い、

平場の関係のなかに流動的なリーダーシップを創ろうとする思い、等々が交錯するなかで、私たちは、葛藤と模索を重ねている。

一体、フェミニズムとリーダーシップとは、どのように関係するのだろうか? それは、フェミニズム全体の問題であると共に、私たち日本女性学会の問題でもある。この点に関するそれぞれの「思い込み」を意識化し、言語化して、オープンにつきあわせあい、一定の合意を得ない限り、「代表」に選ばれた人にも、会員たちにも、常にある種のためらいや不満がつきまってしまう。会員数が200人を超えたいま、思い切りざっくばらんに議論を尽して、私たちにふさわしいかたちを選びとり、生み出したいと思う。多様な意見の積極的表明を期待している。

個人研究発表について

印刷期日の関係上、今回は事前にレジメを掲載できず、申しわけありません。盛り沢山の報告が寄せられていますので、当日を楽しみにしておかけ下さい。

フリータイムについて

土曜の夜、全員のミーティングのあと、「フリータイム」を設けます。イベント、問題提起、その他、積極的に申し出下さい。場所をきめる関係上、ハガキに御記入願います。担当係は諸橋さんです。

書籍販売について

会として販売担当者を置くことはせず、御本人に管理して頂きますが、スペース等の関係上、一応、ハガキにその旨御記入下さい。

会員の異動

いくつかの自治体や、女性学諸団体、諸個人などでネットワークをつくり、アジア各国から15人ほどを招いて、ホームステイ等を活用しながら各地の婦人会館を巡回して会議を重ねる、というイメージが提示されている。

幹事会だより

●第6期第3回幹事会 9月22日 17:00~21:00

場 所：東京都婦人情報センター 講師控室

出席者：秋山、加藤、小松、小林、内藤、平川、深澤、船橋、諸橋、右衛門佐、渡辺

①日本学会事務センター

9月1日に契約を完了した旨、契約書・覚書を提示して、内藤さんより報告があった。

②12月大会について

プログラムと役割分担について検討の上、決定した。

③ Global Action からのイベント参加勧誘について

アメリカ・アリゾナ州フェミックスにある同団体より明年5月に日本とアメリカの女性をテーマにアメリカでイベントを行ないたいとの申入れがあったとの報告があり、詳細を得た上で再度検討することになった。

④アジア女性会議について

日本で2回目のアジア女性会議を1991年秋頃に開催したいので、当学会としての関わり方を検討してほしいとの提案が船橋さんよりあり、検討を進めることとなった。

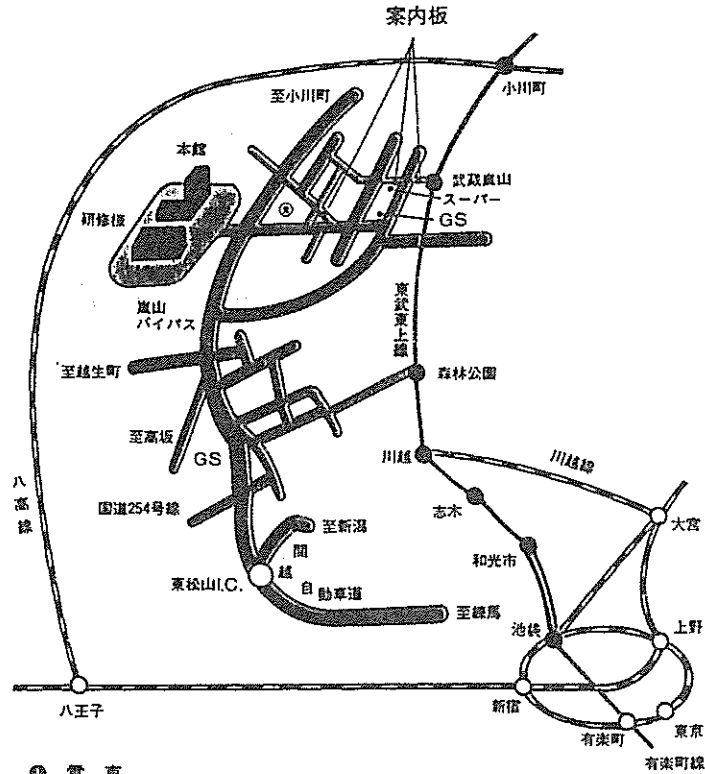
編集後記

大会のプログラムが遅くなって、申し訳ありません。

情報の遅れによって参加できなかった、という方のないことを願いながら、秋の夜、横書き25字の原稿用紙にカサコソと鉛筆を走らせています。今年度から会員の鈴木みどりさんの御紹介で、藤沢市の川村印刷という大変よい印刷所にめぐりあい、また、学会事務センターの谷吉さんの熱心なお仕事に支えられて、ファックスや宅急便を活用してこのニューズレターが刊行され、発行されるようになったことを、昨年からニューズレター担当で、出張校正をしたり発送を分担したりといったことも含めてフーフーいていた私としては、大変ありがたく思っています。新しいシステムを活かしてより早くニューズレターをお届けできるよう、次号から、もう一人のニューズレター担当、諸橋さん共々がんばりたいと思います。一人でも多くの方に国立婦人会館でお会いできることを希っています。今回は大会プログラム特集ですが、次号は8ページ立てで2月発行の予定です。ふるって事務局宛御投稿下さい。

(K)

交通案内



① 電車

- (1) 池袋駅 急行 65分
東武東上線
 - (2) 小川町駅 7分
東武東上線
- 武蔵嵐山駅 15分 徒歩 国立婦人教育会館

② 自動車

- 練馬I.C. 35分 関越自動車道 東松山I.C. 10分 国道254号 国立婦人教育会館 (小川町方面)

* タクシー利用 東武東上線森林公園駅、小川町駅から約15分

国立婦人教育会館

埼玉県比企郡嵐山町大字菅谷728番地
〒355-02 ☎0493-62-6711 (代表)
(FAX) 0493-62-6720

◎大会内容についてのお問合せは、国立婦人教育会館では対応できませんので、日本学会事務センター内日本女性学会事務局 (TEL 03-817-5801) へお願いします。